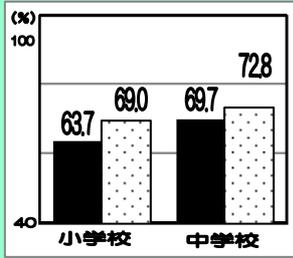


府中町の取組

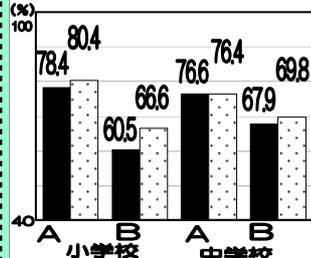
学力調査の結果における特徴～小・中学校国語を中心に～

H28学力調査の結果(小・中学校国語)

「基礎・基本」定着定着状況調査



全国学力・学習状況調査



■ 広島県

□ 府中町

○「基礎・基本」定着状況調査, 全国学力・学習状況調査の教科調査の結果について, 小・中学校ともに国語で県平均を上回っている。

小学校国語「基礎・基本」 +5.3P 全国B +6.1P
中学校国語「基礎・基本」 +3.1P 全国B +1.9P

○国語に関する児童生徒質問紙調査の結果について「基礎・基本」定着状況調査 児童質問紙調査「教科学習への意識」の肯定的回答の割合

・「国語の授業では, 場面の様子や移り変わり, 人物の気持ちを表現している言葉や文に注意しながら, 物語などの文章を読んでいます。」

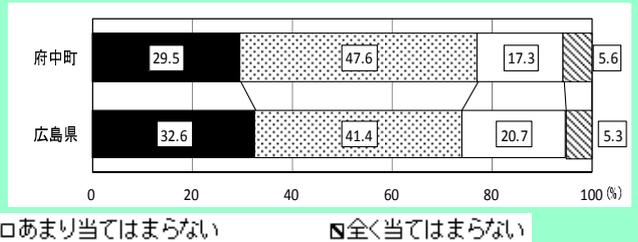
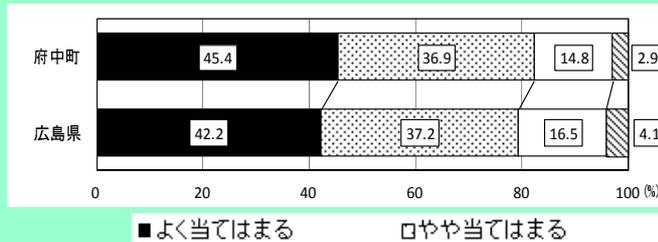
小学校 82.3% (県平均 +3.0P)

中学校 77.1% (県平均 +3.1P)

H28「基礎・基本」定着状況調査(児童生徒質問紙調査)

国語の授業では, 場面のように移り変わり, 人物の気持ちを表現している言葉や文に注意しながら, 物語などの文章を読んでいます。(小学校)

国語の授業では, 場面の様子や移り変わり, 人物の気持ちを表現している言葉や文に注意しながら, 物語などの文章を読んでいます。(中学校)



■ よく当てはまる

□ やや当てはまる

□ あまり当てはまらない

■ 全く当てはまらない

教育委員会の取組

【府中町小中連携教育充実事業】

○ 各小・中学校教職員が, 義務教育9年間を見通した教育課程の重要性を認識して, 各教科等の研究を協同で実施することを通して, 効果的な指導方法等の工夫改善に努め, 児童生徒の学力の向上を図るという目的の下, 実践を進めています。

- ・各中学校区で, 共通の研究テーマを設定し, それに基づいた研究を実施する。
- ・全ての教員は, 年1回以上他校種の授業を参観する。
- ・中学校区において, 合同研修会を年2回以上実施する。
- ・教育委員会は, 中学校区ごとの達成度を確認し, 成果を普及する。

府中中学校区小中連携

【研究主題】 主体的に学ぶ児童・生徒の育成
～「課題発見・解決学習」を取り入れた授業を通して～

府中中学校区『学び合い』のための 授業規律系統表

	授業中		
	聞き方	話し方	ノートの取り方
III 学びの創造	自分の考えと比べながら聞く。	○聞き手を意識しながら, 場に応じた態度で自分の意見をはっきり話す。	○めあて ○振り返り ・聞いた情報や考えた情報を書き加える。 ・他者の考えの良さ・次に広がりつつあったりする疑問や課題を書き加える。
II 仲間の信頼	目を見てうなずきながら聞く。	○場に応じた声の大きさで話す。	○めあて ○振り返り 自分の言葉で指示を受けた観点で振り返りを書く。
I 個の意識	身体(へそ)を向けて聞く。	○返事をして立つ。 ○終わりまで, はっきり言う。 ○はっきりした発音で話す。	○めあて ○振り返り 1文程度の振り返りを書く。
授業前 当たり前の約束	○余分なものをせず, 学習用具を調えている。 ○着ベル ○ノートを開いて, 前時の学習内容を振り返っておく。		

府中緑ヶ丘中学校区小中連携

【研究テーマ】 高い志をもった児童生徒の育成

府中緑ヶ丘中学校区で育てたい資質・能力

スキル	思考力・判断力・表現力	目的や意図に応じて, 考えたことや伝えたいことを自分の言葉で適切に書いたり, 話したりできる。 互いの立場や相手の意図をつかみ, 自分の意見と比べながら聞き, 考えを深めることができる。
意欲・態度	主体性・積極性	自分なりに課題を設定し, 調べる方法を考え, 見通しをもって解決することができる。
価値観・倫理観	アイデンティティ	自他の成長やよさ, 生命の尊さを自覚し, 将来の夢や生き方を考えることができる。

学校の取組

「単元を貫く学習課題で言葉の力の育成」府中町立府中南小学校

本校では、思考力・判断力・表現力の基となる言葉の力を育成するために、単元を貫く学習課題を設定した単元づくりと授業改善を行っています。

第4学年「こんぎつね」(新美南吉)の実践例

課題の設定・共有

「命を伝えるポップを作ろう」という単元を貫く学習課題を設定し、教師によるポップのモデルを提示することで、児童に何のために読み深めていくのかを意識させる。また、新美南吉の作品を紹介して並行読書させることで、読書への関心も高めていった。

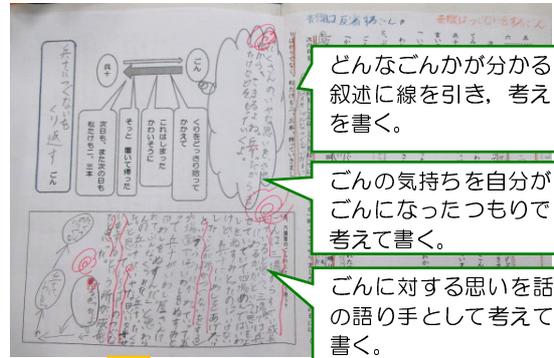


教師によるモデル

場面ごとに「どんなごんだろう。」「どんなごんと兵十だろう。」という課題を設定し、場面状況を「時・場所」に着目してつかむとともに、登場人物の心情を叙述に即して読み取り、登場人物の関係と心情の変容をまとめた。また、読み取ったことを伝え合う際には、根拠となる表現を示しながら考えを述べるようにした。

並行読書のコーナー

課題解決



どんなごんかが分かる叙述に線を引き、考えを書く。

ごんの気持ちを自分かごんになったつもりで考えて書く。

ごんに対する思いを話の語り手として考えて書く。

読み取りを生かしてポップを書く



心に響いた一文
(七場面から)

心に響いた一文から、どう思ったのか。
(語り手として)
(七場面から)

心に残った登場人物の姿
読者に読んでほしいこと
(八場面前半から)

登場人物の気持
(ごんになって)
(三場面から)

課題解決

まとめ・表現・ふり返り

「思考を深める学び合いの推進」

府中町立府中中学校

各教科等の学習において言語活動を充実させ、学力向上を図っています。

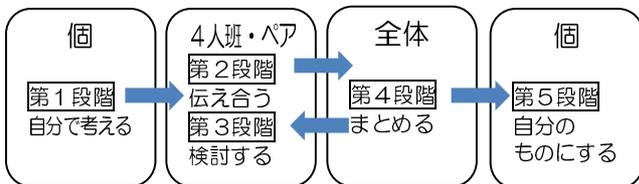
◆主体的・協働的に「学び合う」ポイント◆

1 課題設定の工夫

必然性のある課題を設定する。また、課題解決に向けて1時間かけて深く思考するよう課題を工夫する。



2 「学び合い」のプロセスの確立



3 思考ツールの活用

グループで多様な情報を共有し、考えを再構築しやすくなるよう思考ツールを使わせ、探究的な活動を促す。

4 振り返りの徹底

学習のめあてに対応した振り返りを毎授業で行う。単元をまとめるための振り返りシートなどを活用する。

授業実践例 (第2学年)

「君も小説家! ~智の視点で書き換えよう~」
—教材文「卒業ホームラン (重松清)」を
活用して— (東京書籍)
学習指導要領〔B 書くこと〕
イ (構成), オ (交流)

第一次 本文を読み、主な登場人物や人物像をとらえる。

第二次 叙述から、徹夫(父・監督)の心情を想像する。→賛成か反対かを考え、4人班・学級で交流する。

第三次 叙述から、徹夫(父)と智(子)の心情を想像する。

第四次 **試合中か試合後のどちらかを選び、智の視点で小説を書く。**
→ペアで相互評価をし、学級で交流する。

【目指す生徒の姿】

○場面の様子や移り変わりに注意しながら、智の心情を想像し、一人称や会話文を用いて文章を構成している。

○書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や表現について意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げている。